

14

村上泰音著

日本洞上紀年

洪雨軒藏版

019783-000-3

4-194

日本洞上紀年

栗山 泰音/著

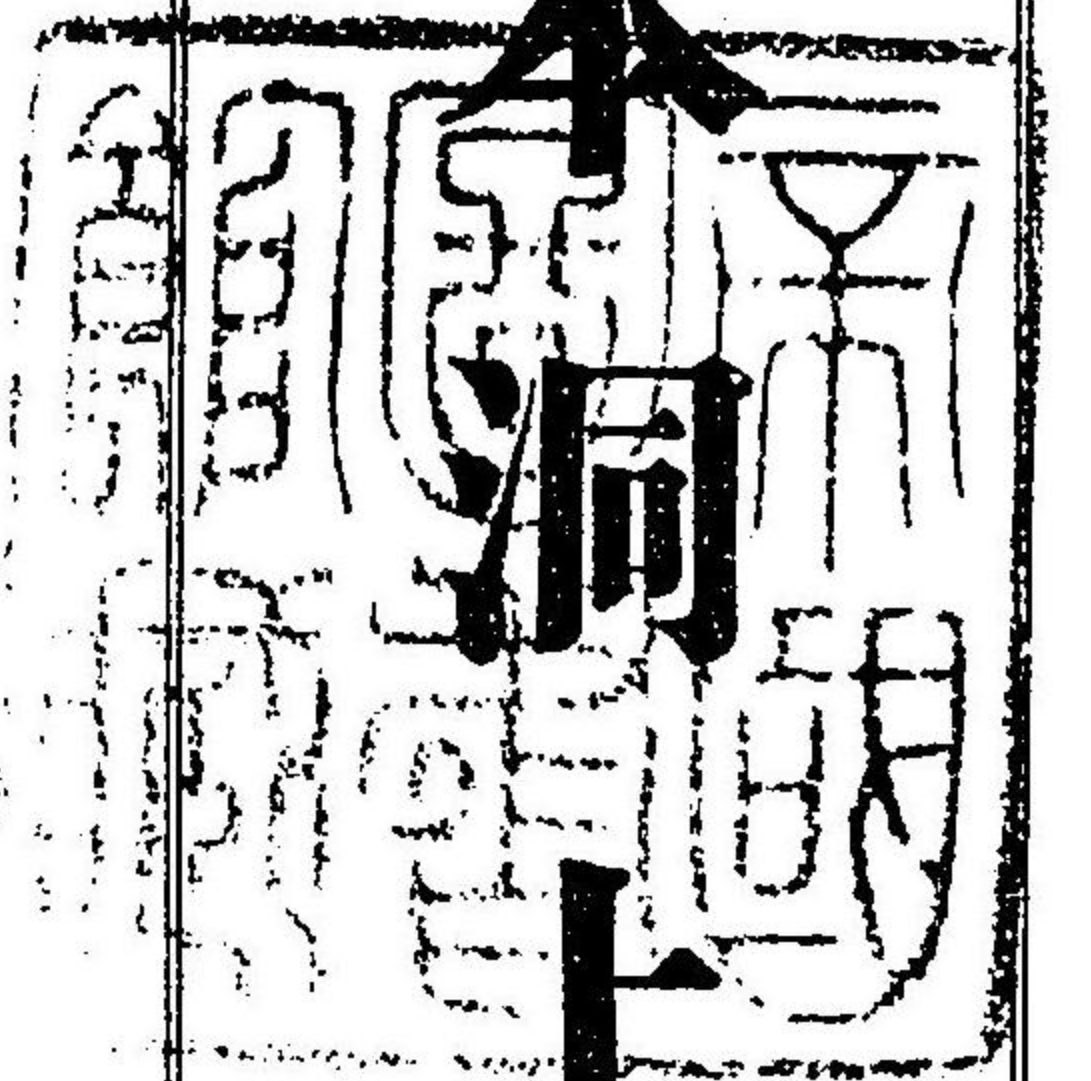
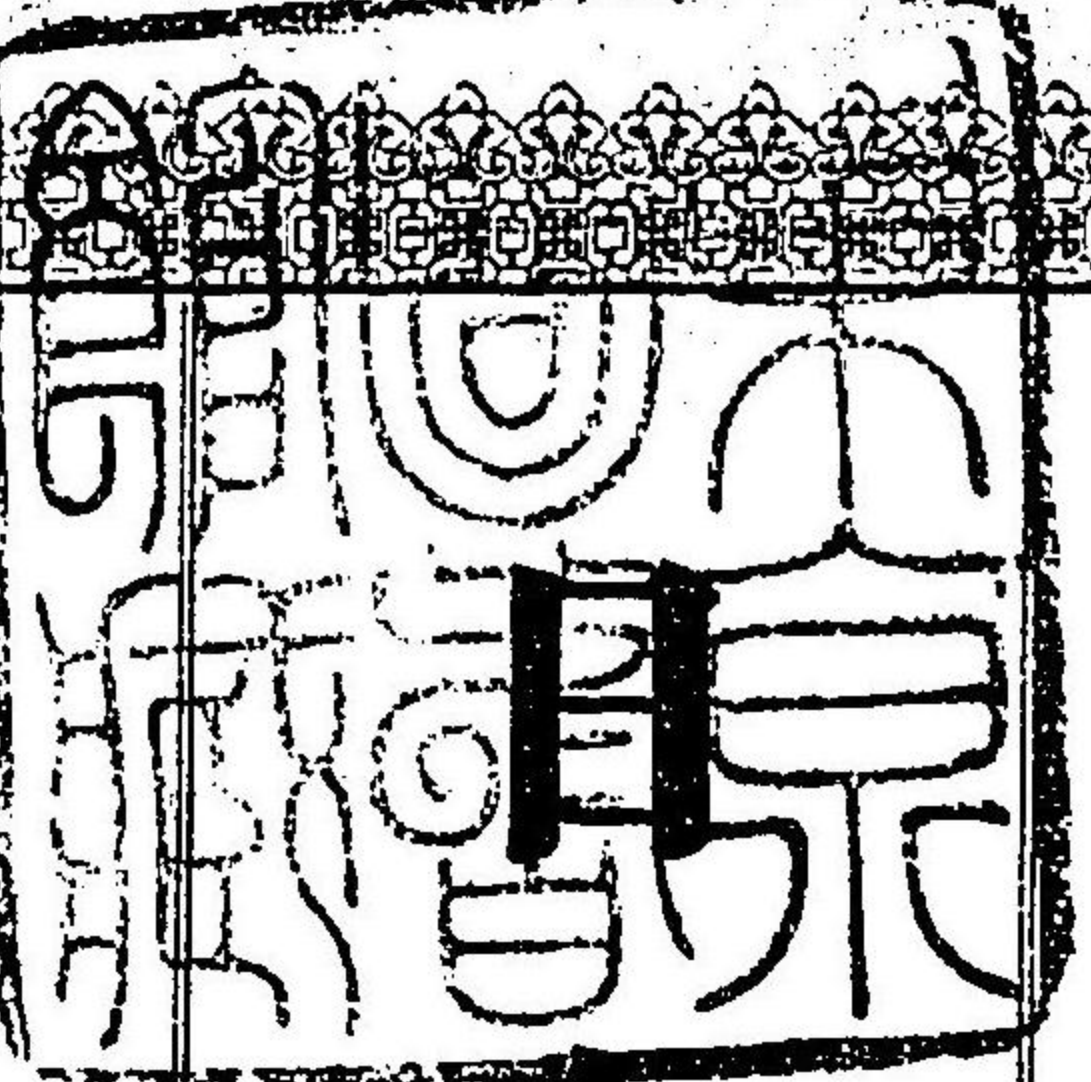
M25.12

ABG-0597



4
194

1979/10



曹洞宗 上紀年

村上泰音編著

曹洞宗大本山總持寺貫首畔上樸仙禪師題字
曹洞宗大本山總持寺前監院在田彦龍師序文
曹洞宗大本山總持寺監院石川素童師校閱



古今

古今一目

總持獨任二世

棋仙老衲



日本洞上紀年序

天下何の社會か歴史なからん彼の木實を食ふて穴居する者水草を逐ふて轉徙する者尙一種の活歴史たるを減せず誰か吾宗に歴史なしといふや蓋し嘗て思惟すらく上は兩本山開闢の因由より以て下は宗風の汚隆宗綱の弛張に及ぶ一に吾宗の活歴史たらざるはなし此活歴史を有し且つ貫くに六百餘の星霜を以てす獨立の實年として抜くへからず而して大義名分明かに定まる抑も怪む獨立の實此の如く年として抜く可らず大義名分此の如く明かに定まるにも拘らず動もすれば不軌妄惑の徒出て以て之れか破壊を企つる者あるは何ぞ想ふに道義の湮滅遂に人の心腸

を腐蝕せしめたるに是れ由るへしと雖も亦未だ必ずしも史乘紀年の以て上下六百餘の星霜を貫くべき事歴を傳ふる者なきに基かすんばあらず今や我大本山總持寺副監院村上泰音師の日本洞上紀年を見る是れ極めて簡に要を綴るに過ぎされども以て聊か人意を強ふす可き也吾宗の緇素幸に此書に就て吾宗開闢以後の事歴を討ぬるの一助と爲さば大義名分の以て愈よ兩山併立制度を許さるるを悟らん而して泰音師の意志於此乎益々貫通す可き也聊か所思を述へ以て卷末に識す

明治二十五初冬

舊交雲廬彦龍布衲

鴈字斜なる邊。一天秋高く。楓錦染むる處。滿城氣清し。此際に膺りて。他の繽紛たる塵事。一時に襲ひ來るも。通身孰れの處にか點埃を着くるを得ん。去て案頭に對して竊に西天古昔の佛法を回顧すれば。日中一食。樹下一宿。以て沙門の行業と爲し。隨緣處々。佛法を興隆し。衆生を化益す。此時に於て。本山なく。末寺なく。權限なく。紛擾なし。降て震旦の昔時に在ても。少林の冷坐面壁九年。僅に一人の神光を得て。心印を傳ふるに足るへく。黃梅七百僧の大會も。唯一箇の盧行者を竣て。衣鉢を屬するに過ぎず。此間。奚そ些子階級的の云爲あらんや。轉して我國の佛法各宗を賙るに。其由來經歷。概ね國朝政府と相關し。隨て本末出世の秩序を存し。本山相互の格式を定め。終に佛法統治の制度を規畫して。毫も紊るへからざるに至れり。茲に於て乎。我宗兩山中古以降の事歴を追想すれば。鬪爭軋轢。一起一伏。時に常なしと雖も。兩山互に和合無諍の本分を忘却して。空く塵事茫々の中に歲月を費すこと。實に孔たしきものあり。是れ自ら厭ふへく。自ら悔つへきの極なりと雖も。我國佛法の制度。既に從來の如

く。加施。一宗に同等同權の本山併立對峙するの組織に在ては。鬭爭軋轢。未だ決して免るへからざるの數にして。徒らに今時の人のみを責むるは。抑も酷なり。懷ふに我佛法も業に三千の星霜を閱して。時機處交も一變し。殊に維新以來。未だ二十餘年に過ぎずと雖も。他の制度文物の更革に伴ふて。更に激變したる者多きは争ふへくもあらず。時に宜く其行はれ得へき所に隨て復舊革新し。以て佛法興隆の道に幾からんことを希はざるへからず。嗚呼。宗門孰れの時にまで此續紛たる塵事に堪へんや。竹窓の下。靜坐沈黙。彼を思ひ此を想ふて。獨り悵然たること久矣。時に拙著日本洞上紀年淨寫成るを告ぐ。是れ些か以て我宗の昔時に鑑み。推して將來を照すの資料に供するを得へき乎。因みに感ずる所を記して之か自序に代ふ

明治壬辰暮秋東京城南能山支院の藏輝樓に於て

洪雨學人雷澍泰音

例言

一 日本曹洞の宗門由來半千餘霜を閱すと雖も未だ此間の事歴を一申に貫ける史乘の存するなく又此間の事歴を編次せる年代記すら世に公に存するを見ず先進在田彦龍師は云ふ「前年黙止和尚原著靈鳳和尚校訂緇林年芳なる者の草稿を一瞥せしことあるも未だ上木の運に至らず實に之を遺憾と爲す」と眞に然り然れども彼れ縦ひ開版の時に遭ふも是れ緇林全體の年芳にして未だ洞上専門の年代記にあらず予か「日本洞上紀年」の編を爲す些か此缺けたるを補はんか爲めなり

一 編中釋尊入滅の紀年を編むや其標準世説既に一樣ならず今一に友人高田道見師か考證に成れる釋尊入滅(佛壽七十九歲)周穆王五十二年壬申二月十五日即ち明治廿六年癸巳に至る二千八百四十二年(釋尊誕生は周昭王三十六年甲寅四月八日即ち明治二十六年癸巳に至る二千九百二十年と成るの計算なり)と成るの説に據る(尤も高田師の計算標準は主として佛祖統紀に依りたるものにして予も徒らに之に信憑するものにあらず予前年明教社に在りたるの日數多の書類を考證穿鑿して師か説の違はざるを證し既に明教誌上に三辰曆算論なる一編を掲げ始めて此紀年一定説を確かめんと欲したるも論半はにして退社したれば今茲に此標準を取て世に示すもの傍ら彼の三辰曆算論の無責任に畢らざるを自證せんか爲めなり讀者幸に此蛇足を咎むる勿らんことを)

一 編中神武天皇即位紀年歷代天皇御宇并に年號及び明治廿六年を溯るの年次を編むこと別に其標準の言明を要せず唯宗門の事歴を其時代に配當し且一々屈指の勞を省くの便を圖りたるのみ

一 編中各年の事歴を編むの一事に就ては予か見聞の狹隘なると宗門其参考書に豊かならざることを爲め唯予か考證穿鑿に最も便を得たる能山の古書舊記の類に就て重なる材料を得たるのみ依て更に考證穿鑿の勞と其日月とを得は尙ほ幾層の詳密を得へかりしならん又各祖諸師の示寂年月の如きは主として秀恕和尚の日本洞上聯燈錄(大内青巒居士校訂)を主なる資料として更に二三の錯誤あるものを訂し且自餘幾許の傳記類を参照して之を編することとは爲せり

一 編中曹洞宗名敕定の紀元を定め之を基點として其前後の年次を編みたるの一事に於ては宗内多少の異論あらん然れども是れ唯予か一己の私見にあらす先進石川素童師最も此説に同意し殊に彼の日本曹洞宗名稱考著者の如きも既に宗名敕定説の抱持者なれば宗内先づ差したる異論はなかるべき乎縦ひ之あるにもせよ予は此説に於て既に確然たる定見のある在り焉んそ他を顧るの要あらんや

一 次に予か此編の著たる殊に筆忙病劇の間に成る其穿鑿の未だ精刻ならずして其資料の蒐集に乏しきか如きは實に己む能はざる所なり請ふ更に他日を期して校訂増補の縁を竣たん

一 又予か此編に於ける或る一部の讀者は我佛獨尊の評語を試むるあらんを想ふ若し之あらば敢て予か爲めにせしにあらすして予か爲人經歷及び地位境遇は偶々彼れをして斯かる評語を下さしめたるに過ぎざるなり予に於て何かあらん故に予は想ふ彼れも亦我佛獨尊の徒なる哉と

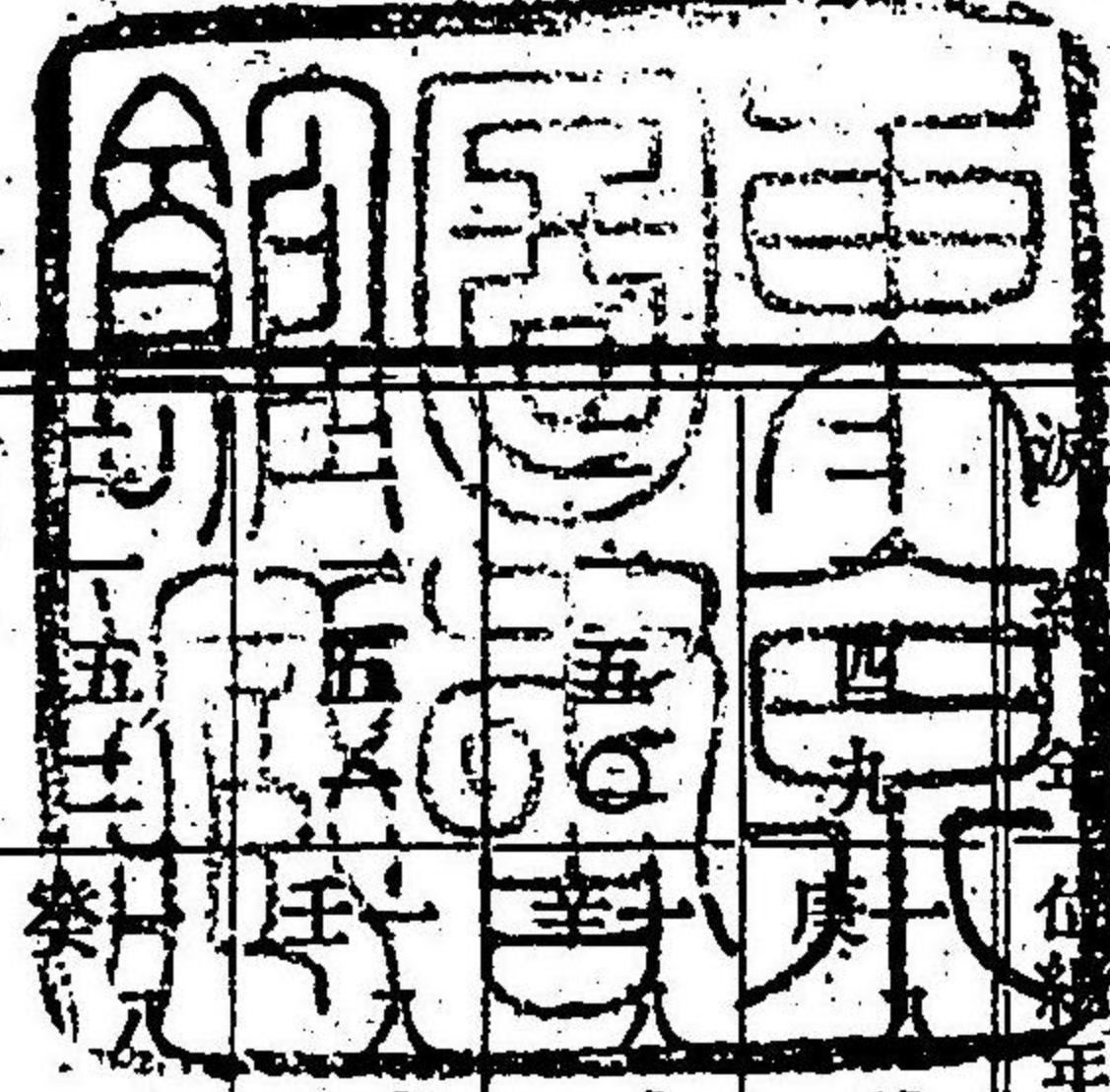
明治廿五年十二月

村 上 泰 音 識

日本洞上紀年

石川素童校閱
村上泰音編著

第一段	第二段	第三段	第四段	第五段	第 六 段
釋尊入 神武天皇即 位年干支	御宇 天皇	宗名勅定 紀元前後	從明 治	事	歷
庚申	土御門天皇 正治二	一二二 六九四		正月二日永祖誕生	
辛酉	建仁 元	一二二 六九三			
壬戌	同	一二〇 六九二		十月廿日永祖父久我通親薨	
癸亥	同	一一九 六九一		永祖李嶠百詠ヲ讀ム	
甲子	同 久	一一八 六九〇			
乙丑	同	一一七 六八九			



二一五五	丙一八六六	土御門天皇	一一六	六八八	永祖毛時左傳ヲ讀ム
二一五六	丁一八六七	承元	一一五	六八七	永祖母逝ス
二一五七	戊一八六八	同	一一四	六八六	永祖俱舍論ヲ讀ム
二一五八	己一八六九	同	一一三	六八五	
二一五九	庚一八七〇	同	一一二	六八四	
二一六〇	辛一八七一	順德天皇	一一一	六八三	
二一六一	壬一八七二	同	一一〇	六八二	春永祖出家叔父良觀法眼ノ室ニ投ス
二一六二	癸一八七三	建保	一〇九	六八一	四月九日永祖公圓僧正ニ就テ落髮受具
二一六三	甲一八七四	同	一〇八	六八〇	永祖諸經論ヲ涉獵シ三井寺公胤僧正ヲ訪ヒ尋テ建仁寺ニ入り榮西禪師ニ參見師事ス
二一六四	乙一八七五	同	一〇七	六七九	七月五日榮西禪師寂 永祖明全和尚ニ隨侍ス

二一六五	丙一八七六	同	一〇六	六七八	
二一六六	丁一八七七	同	一〇五	六七七	
二一六七	戊一八七八	同	一〇四	六七六	孤雲禪師出家
二一六八	己一八七九	承久	一〇三	六七五	二月二日徹通禪師誕
二一六九	庚一八八〇	同	一〇二	六七四	
二一七〇	辛一八八一	同	一〇一	六七三	永祖明全和尚ヨリ師資ノ許可アリ
二一七一	壬一八八二	後堀河天皇	一〇〇	六七二	永祖今年マテニ大藏經ヲ閱覽スルコトニ回又大戒ヲ明全和尚ヨリ稟受ス
二一七二	癸一八八三	同	九九	六七一	永祖明全和尚ニ隨テ入宋シ天童山ニ登テ無際和尚ニ參見ス
二一七三	甲一八八四	同	九八	六七〇	
二一七四	乙一八八五	同	九七	六六九	五月朔日永祖天童山如淨禪師ニ參見隨侍ス五月七日明全和尚寂 九月十八日永祖如淨禪師ヨリ大戒ヲ稟受ス

二一八四	二一八三	二一八二	二一八一	二一八〇	二一七九	二一七八	二一七七	二一七六	二一七五
乙一九〇 巳五	甲一九〇 辰四	癸一九〇 卯三	壬一九〇 寅二	辛一九〇 丑一	庚一九〇 子〇	己一九〇 亥九	戊一九〇 戌八	丁一九〇 酉七	丙一九〇 申六
同同 三	同同 二	同同 三	同同 二	同同 三	同同 二	同同 元	同同 二	同同 元	同同 二
嘉禎 元	文曆 元	天福 元	貞永 元	同同 三	同同 二	同同 元	同同 二	安貞 元	嘉祿 二
八七 六五九	八八 六六〇	八九 六六一	九〇 六六二	九一 六六三	九二 六六四	九三 六六五	九四 六六六	九五 六六七	九六 六六八
	懷辨禪師永祖ニ深草ニ參ス	永祖興聖寺ヲ建立ス		徹通禪師波若寺懷鑑和尚ニ就テ剃度	此頃ヨリ永祖深草閑居			冬永祖天童山ヲ告暇歸朝シ建仁寺ニ寓ス ルコト三年	

二一九四	二一九三	二一九二	二一九一	二一九〇	二一八九	二一八八	二一八七	二一八六	二一八五
乙一九〇 巳五	甲一九〇 辰四	癸一九〇 卯三	壬一九〇 寅二	辛一九〇 丑一	庚一九〇 子〇	己一九〇 亥九	戊一九〇 戌八	丁一九〇 酉七	丙一九〇 申六
同同 三	同同 二	同同 三	同同 二	同同 二	同同 元	同同 元	同同 元	同同 三	同同 二
同同 三	同同 二	同同 三	同同 二	同同 二	同同 元	同同 元	同同 元	同同 三	同同 二
七七 六四九	七八 六五〇	七九 六五一	八〇 六五二	八一 六五三	八二 六五四	八三 六五五	八四 六五六	八五 六五七	八六 六五八
	七月十八日永祖吉祥山大佛寺開堂 九月一日法堂落成開堂	永祖越前ニ入ル	永祖義尹禪師ニ大事ヲ授ク 又法燈禪師ニ菩薩戒ヲ授ク	徹通禪師永祖ニ見ユ 義演禪師永祖ニ見ユ 寒巖禪師永祖ニ見ユ					冬永祖興聖寺ニ於テ開堂 懷辨禪師首座ニ充ツ

二一九五	丙一九〇六	後嵯峨天皇	七六六四八	永祖大佛寺ヲ永平寺ト改ム
二一九六	丁一九〇七	後深草天皇	七五六四七	永祖最明寺道崇ノ請ニ依リ鎌倉ニ赴ク
二一九七	戊一九〇八	同	七四六四六	三月十三日永祖鎌倉ヨリ歸ル
二一九八	己一九〇九	建長	七三六四五	十月十八日永祖遺文九箇條ヲ定ム
二一九九	庚一九一〇	同	七二六四四	後嵯峨天皇永祖ニ紫衣ヲ賜フ
二二〇〇	辛一九一一	同	七一六四三	夏永祖微疾
二二〇一	壬一九一二	同	七〇六四二	七月十四日懷辨禪師永平寺入院 八月五日永祖示寂 十二月義雲禪師歸
二二〇二	癸一九一三	同	六九六四一	寒巖禪師歸朝
二二〇三	甲一九一四	同	六八六四〇	
二二〇四	乙一九一五	同	六七六三九	

二二〇五	丙一九一六	康元	六六六三八	
二二〇六	丁一九一七	正嘉	六五六三七	
二二〇七	戊一九一八	同	六四六三六	
二二〇八	己一九一九	正元	六三六三五	徹通禪師入宋
二二〇九	庚一九二〇	龜山天皇	六二六三四	
二二一〇	辛一九二一	弘長	六一六三三	
二二一一	壬一九二二	同	六〇六三二	徹通禪師歸朝
二二一二	癸一九二三	同	五九六三一	
二二一三	甲一九二四	文永	五八六三〇	寒巖禪師再入宋
二二一四	乙一九二五	同	五七六二九	

二二二五	丙一九二寅六	龜山天皇	五六六二八	
二二二六	丁一九二卯七	同同	五五六二七	徹通禪師永平寺入院 寒巖禪師歸朝
二二二七	戊一九二辰八	同同	五四六二六	十月八日總祖誕生
二二一八	己一九二巳九	同同	五三六二五	
二二一九	庚一九三午〇	同同	五二六二四	總祖合掌佛名ヲ唱フ
二二二〇	辛一九三未一	同同	五一六二三	
二二二一	壬一九三申二	同同	五〇六二二	總祖遊戯ニ佛事ヲ作ス
二二二二	癸一九三酉三	同同	四九六一一	總祖觀音ノ像ヲ拜シテ出家ノ志ヲ起ス
二二二三	甲一九三戌四	同同	四八六二〇	總祖經史ヲ讀ミ三寶ヲ敬ス
二二二四	乙一九三亥五	後宇多天皇 建治元	四七六一九	四月八日總祖徹通禪師ニ就テ沙彌ト成ル 嵯山禪師誕生

二二二五	丙一九三子六	同同	四六六一八	
二二二六	丁一九三丑七	同同	四五六一七	
二二二七	戊一九三寅八	弘安元	四四六一六	
二二二八	己一九三卯九	同同	四三六一五	
二二二九	庚一九四辰〇	同同	四二六一四	二月十八日總祖孤雲禪師ニ就テ大戒ヲ受ク 八月廿四日孤雲禪師寂
二二三〇	辛一九四巳一	同同	四一六一三	
二二三一	壬一九四午二	同同	四〇六一二	
二二三二	癸一九四未三	同同	三九六一一	寒巖禪師大慈寺ヲ建立ス
二二三三	甲一九四申四	同同	三八六一〇	
二二三四	乙一九四酉五	同同	三七六〇九	正月廿日ヨリ總祖遊方行脚寂園以下諸師ニ參見シ叡山ニ登ル

二二三五	丙一九四六	後宇多天皇	弘安九	三六六〇八	七月總祖叡山ヲ下リ紀伊ノ法燈禪師ニ參ス
二二三六	丁一九四七	同	同	三五六〇七	
二二三七	戊一九四八	伏見天皇	正應	三四六〇六	總祖再ヒ寂圓禪師ニ參シ尋テ永平寺ニ徹通禪師ヲ省ス
二二三八	己一九四九	同	同	三三六〇五	總祖徹通禪師ニ侍シテ大乘寺ニ至ル七月衆林寺道荐禪師寂
二二三九	庚一九五〇	同	同	三二六〇四	峩山禪師叡山ニ登テ落髮受具
二二四〇	辛一九五一	同	同	三一六〇三	
二二四一	壬一九五二	同	同	三〇六〇二	
二二四二	癸一九五三	同	永仁	二九六〇一	
二二四三	甲一九五四	同	同	二八六〇〇	徹通禪師ノ上堂ニ依リ總祖大悟
二二四四	乙一九五五	同	同	二七五九九	總祖徹通禪師ニ就キ入室傳衣

二二四五	丙一九五六	同	同	二六五九八	總祖阿州城滿寺ニ赴化ス
二二四六	丁一九五七	同	同	二五五九七	總祖肥後大慈寺ニ寒巖禪師ヲ訪フ峩山禪師始メテ總祖ノ室ニ投シテ參禪ス
二二四七	戊一九五八	同	同	二四五九六	
二二四八	己一九五九	後伏見天皇	正安	二三五九五	總祖城滿寺ヨリ大乘寺ニ歸ル九月十三日寂圓禪師寂
二二四九	庚一九六〇	同	同	二二五九四	總祖徹通禪師ニ代リテ說法垂誡ス八月廿一日寒巖禪師寂
二二五〇	辛一九六一	同	同	二一五九三	十月廿三日峩山禪師大悟 大慈寺斯道紹由禪師寂
二二五一	壬一九六二	後二條天皇	乾元	二〇五九二	徹通禪師大乘寺退隱總祖其後席ヲ董ス
二二五二	癸一九六三	同	嘉元	一九五九一	
二二五三	甲一九六四	同	同	一八五九〇	
二二五四	乙一九六五	同	同	一七五八九	

二二五五	丙一九六六	後二條天皇	一六	五八八	嵯山禪師諸方ニ遍歴ス
二二五六	丁一九六七	同	一五	五八七	
二二五七	戊一九六八	花園天皇	一四	五八六	徹通禪師病兆アリ總祖給養ニ從フ
二二五八	己一九六九	同	一三	五八五	九月十四日徹通禪師寂
二二五九	庚一九七〇	同	一二	五八四	
二二六〇	辛一九七一	應長	一一	五八三	十月十日總祖大乘寺ノ院事ヲ明峯禪師ニ讓リ淨住寺ノ請ニ應シテ開山ト成ル
二二六一	壬一九七二	正和	一〇	五八二	總祖滋野氏ノ請ニ依リ能州酒井ニ赴ク
二二六二	癸一九七三	同	九	五八一	秋總祖酒井ニ永光寺ヲ開創ス
二二六三	甲一九七四	同	八	五八〇	總祖能州光孝寺ノ開山下成ル 十月二十六日義演禪師寂
二二六四	乙一九七五	同	七	五七九	

二二六五	丙一九七六	同	六	五七八	
二二六六	丁一九七七	文保	五	五七七	
二二六七	戊一九七八	同	四	五七六	總祖母逝ス
二二六八	己一九七九	後醍醐天皇	三	五七五	
二二六九	庚一九八〇	同	二	五七四	總祖悲母ノ爲メ洞谷山ニ圓通院ヲ造立ス
二二七〇	辛一九八一	元亨	紀元前	五七三	總祖定賢律師ノ請ニ依リ總持寺ヲ建立ス 八月後醍醐天皇總祖ニ十種ノ勅問ヲ垂ル 總祖一々之ニ奏對ス
二二七一	壬一九八二	同	宗名勅定	五七二	八月廿八日後醍醐天皇總持寺ヲ日本書院出世ノ遺囑ト成シ勅願所ト定メ直後醍醐天皇ノ正脈ヲ授け上之ヲ風ニ云々ノ繪文ニ依テ日本書院ノ宗名ヲ勅定セラレ
二二七二	癸一九八三	同	紀元	五七一	二月無涯智洪禪師淨住寺ニ住ス
二二七三	甲一九八四	正中	三	五七〇	三月十六日總祖總持寺十條ノ總鑑ヲ定ム 七月七日總祖總持寺ノ住持職ヲ嵯山禪師ニ讓ル
二二七四	乙一九八五	同	四	五六九	八月十五日總祖示寂

入滅紀年 即位紀年 歷代年號 宗名紀元

二二八四	二二八三	二二八二	二二八一	二二八〇	二二七九	二二七八	二二七七	二二七六	二二七五
乙一九九亥五	甲一九九戌四	癸一九九酉三	壬一九九申二	辛一九九未一	庚一九九午〇	己一九八巳九	戊一九八辰八	丁一九八卯七	丙一九八寅六
同同	建武後醍醐天皇	同同	正慶光嚴天皇	元弘	同同	元德	同同	同同	嘉曆後醍醐天皇
二	元	二	元	元	二	元	三	二	元
一四五五九	一三五六〇	一二五六一	一一五六二	一〇五六三	九五六四	八五六五	七五六六	六五六七	五五六八
通幻禪師薙髮シテ寂靈ト名ク		大徹禪師誕生 十月十二日義雲禪師寂	通幻禪師了童ニシテ叡山ニ登ル						

(一四)

二二八五	二二八六	二二八七	二二八八	二二八九	二二九〇	二二九一	二二九二	二二九三	二二九四
丙一九九子六	丁一九九丑七	戊一九九寅八	己一九九卯九	庚一九九辰〇	辛一九九巳一	壬一九九午二	癸一九九未三	甲一九九申四	乙一九九酉五
延元	同同	同同	後村上天皇 興國元	同同	同同	同同	同同	同同	同同
元	天光皇明	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同
一五五五八	一六五五七	一七五五六	一八五五五	一九五五四	二〇五五三	二一五五二	二二五五一	二三五五〇	二四五四九
二月十二日大慈寺鐵山士安禪師寂			十一月三日鷲林寺愚谷常賢禪師寂	通幻禪師大乘寺ニ掛錫ス	九月十六日壺菴至簡禪師寂	通幻禪師巖山禪師ニ見ユ			巖山禪師永壽院ヲ建立ス

(一五)

從明治廿六

二二二一五	丙二〇二六	後村上天皇 貞治五	四五二八	十二月十日祇陀寺大智禪師寂
二二二一六	丁二〇二七	同	四六五二七	
二二二一七	戊二〇二八	同	四七五二六	
二二二一八	己二〇二九	長慶帝 同二四	四八五二五	
二二二一九	庚二〇三〇	同	四九五二四	八月十三日太源以下列祖總持寺ヲ以テ末代マテ洞上ノ本寺ト爲スノ規約ヲ定ム 通幻禪師永澤寺ヲ建立ス
二二二二〇	辛二〇三一	建德元 同	五〇五二三	十一月廿日太源禪師寂
二二二二一	壬二〇三二	同	五一五二二	一説ニ此年永平寺へ出世ノ敕裁アリト傳フ
二二二二二	癸二〇三三	同	五二五二一	
二二二二三	甲二〇三四	同	五三五二〇	
二二二二四	乙二〇三五	同	五四五一九	玄翁禪師會津示現寺ニ移ル

二二二二五	丙二〇三六	同	五五五一八	
二二二二六	丁二〇三七	同	五六五一七	
二二二二七	戊二〇三八	同	五七五一六	十月廿三日通幻以下列祖巖山和尚門人衆聯判狀ヲ認ム
二二二二八	己二〇三九	同	五八五一五	九月十三日永德寺道叟道愛禪師寂
二二二二九	庚二〇四〇	同	五九五一四	十月廿日實峯以下列祖當山門定置狀ヲ認ム
二二三三〇	辛二〇四一	弘和元 同	六〇五一三	十二月六日皇德寺無外圓照禪師寂
二二三三一	壬二〇四二	同	六一五一二	十月廿日實峯以下列祖總持寺住持職ニ關スル置文ヲ認ム 通幻禪師詔ヲ奉シテ總持寺ニ住ス
二二三三二	癸二〇四三	同	六二五一一	
二二三三三	甲二〇四四	同	六三五一〇	
二二三三四	乙二〇四五	同	六四五〇九	玄翁禪師那須野原ニ殺生石ヲ濟フ

二三五五	丙二〇六六	應永一三	八五	四八八	正月十二日禪林寺普濟善教和尙寂 月八日永光寺温老宗興和尙寂
二三五六	丁二〇六七	同同	八六	四八七	正月朔日聖光寺悅堂常喜和尙寂 日禪昌寺慶屋定紹和尙寂
二三五七	戊二〇六八	同同	八七	四八六	正月廿五日大徹禪師寂
二三五八	己二〇六九	同同	八八	四八五	
二三五九	庚二〇七〇	同同	八九	四八四	六月三日興禪寺不見妙見和尙寂
二三六〇	辛二〇七一	同同	九〇	四八三	三月十八日最乘寺了庵慧明和尙寂
二三六一	壬二〇七二	同同	九一	四八二	
二三六二	癸二〇七三	同同	九二	四八一	正月二日正眼寺天隱祖和尙寂 山得仙和尙寂 四日松隱寺大初繼覺和尙寂 賢和尙寂
二三六三	甲二〇七四	同同	九三	四八〇	十月廿八日瑞光寺春巖祖東和尙寂
二三六四	乙二〇七五	同同	九四	四七九	三月一日龍門寺古山真空和尙寂 等一祐和尙寂 月十日願成寺梅榮元香和尙寂

(111)

二三六五	丙二〇七六	同同	九三	四七八	二月十五日示現寺天海空廣和尙寂 廿六日圓通寺英仲法俊和尙寂
二三六六	丁二〇七七	同同	九四	四七七	九月七日龍澤寺梅山開本和尙寂
二三六七	戊二〇七八	同同	九五	四七六	四月廿三日願成寺芳庵祖嚴和尙寂
二三六八	己二〇七九	同同	九六	四七五	
二三六九	庚二〇八〇	同同	九九	四七四	
二三七〇	辛二〇八一	同同	一〇〇	四七三	
二三七一	壬二〇八二	同同	一〇一	四七二	八月十三日大祥寺虎溪其乳和尙寂
二三七二	癸二〇八三	同同	一〇二	四七一	四月朔日海藏寺梅巖東和尙寂 四月十一日福昌寺石 眞和尙寂 七日願成寺榮堂能勝和尙寂 和尙寂
二三七三	甲二〇八四	同同	一〇三	四七〇	十一月廿七日明光寺無雜融純和尙寂
二三七四	乙二〇八五	同同	一〇四	四六九	七月廿七日總光寺月庵良圓和尙寂 廿二日大寧寺智翁永宗和尙寂

從明治廿六

(112)

二二三八四	乙二〇九卯五	同同	七	一一四四五九	
二二三八三	甲二〇九寅四	同同	六	一一三四六〇	洞福院海仲珊和尙入明 八月一日青蓮寺綱庵性宗和尙寂
二二三八二	癸二〇九丑三	同同	五	一一二四六一	正月廿二日慈光寺顯窓慶字和尙寂 九月廿五日永明寺月因性初和尙寂
二二三八一	壬二〇九子二	同同	四	一一一四六二	三月廿七日大率寺定菴殊禪和尙寂 八月廿八日大乘寺壽山了運和尙寂
二二三八〇	辛二〇九亥一	同同	三	一一〇四六三	十一月十日福聚寺實菴融參和尙寂
二二三七九	庚二〇九戌〇	同同	二	一〇九四六四	十二月廿八日補陀寺無極慧徹禪師寂
二二三七八	己二〇八酉九	後花園天皇 永享元年	一〇八四六五		
二二三七七	戊二〇八申八	正長元	一〇七四六六		九月六日大光寺天德曇貞和尙寂
二二三七六	丁二〇八未七	同同	一〇六四六七		九月廿日洞光寺澄照良源和尙寂
二二三七五	丙二〇八午六	稱光天皇 應永三三	一〇五四六八		

二二三八五	丙二〇九辰六	同同	八	一一五四五八	
二二三八六	丁二〇九巳七	同同	九	一一六四五七	正月十四日大慈寺大綱明宗和尙寂 二月四日大洞院如仲天閣和尙寂 九月七日寶福寺字堂覺已和尙寂
二二三八七	戊二〇九午八	同同	一〇	一一七四五六	
二二三八八	己二〇九未九	同同	一一	一一八四五五	
二二三八九	庚二〇一〇申〇	同同	一二	一一九四五四	正月八日慶德寺春庭見芳和尙寂
二二三九〇	辛二〇一〇酉一	嘉吉元	一二〇四五三		正月廿五日妙嚴寺東海義易和尙寂 五月廿七日後花園天皇與州正法寺へ輪旨ヲ賜フ 八月廿三日盛景寺昌菴悅丰和尙寂
二二三九一	壬二〇一〇戌二	同同	一二一四五二		七月四日洞松寺喜山性讚和尙寂
二二三九二	癸二〇一〇亥三	同同	一二二四五一		
二二三九三	甲二〇一〇子四	文安元	一二三四五〇		
二二三九四	乙二〇一〇丑五	同同	一二四四四九		六月六日福昌寺仲翁守邦和尙寂 九月十六日龍興寺希明清良和尙寂

二四〇四	乙二一	亥五	同同	元	一三四	四四三	十九日	四月朔日普濟寺華嚴義曇和尚寂
二四〇三	甲二一	戌四	同同	三	一三三	四四〇		十九日圓通寺牧翁性欽和尚寂
二四〇二	癸二一	酉三	同同	二	一三二	四四一	五月十四日正法寺在山融松和尚寂	
二四〇一	壬二一	申二	享同德	元	一三一	四四二	五月十八日關雲寺覺隱永本和尚寂	
二四〇〇	辛二一	未一	同同	三	一三〇	四四三	珊瑚仲珊和尚歸朝	
二三九九	庚二一	午〇	同同	二	一二九	四四四	二月廿二日瑞德寺笑巖慧忻和尚寂	
二三九八	己二一	巳九	寶同德	元	一二八	四四五	八月十五日洞壽院真嚴道空和尚寂	
二三九七	戊二一	辰八	同同	五	一二七	四四六	雲林寺不琢玄珪和尚寂	
二三九六	丁二一	卯七	同同	四	一二六	四四七	大寧寺惟中守勤和尚寂	
二三九五	丙二一	寅六	後花園天皇 文安	三	一二五	四四八	四月十四日圓通院大輝靈曜和尚寂	

二四〇五	丙二一	子六	同同	二	一三五	四三八	三月十九日報恩院春屋宗能和尚寂
二四〇六	丁二一	丑七	長祿	元	一三六	四三七	三月十一日龍興寺大見禪龍和尚寂
二四〇七	戊二一	寅八	同同	二	一三七	四三六	七月八日崇信寺石叟圓柱和尚寂
二四〇八	己二一	卯九	同同	三	一三八	四三五	日最勝院吾實宗瑛和尚寂
二四〇九	庚二一	辰〇	寬同正	元	一三九	四三四	五月十九日種月寺南英謙宗和尚寂
二四一〇	辛二一	巳一	同同	二	一四〇	四三三	十月廿五日龍文寺竹居正猷和尚寂
二四一一	壬二一	午二	同同	三	一四一	四三二	十月朔日大乘寺義山等仁和和尚寂
二四一二	癸二一	未三	同同	四	一四二	四三一	正月廿二日補陀寺月江正文和尚寂
二四一三	甲二一	申四	同同	五	一四三	四三〇	
二四一四	乙二一	酉五	後土御門天皇 同	六	一四四	四二九	十一月十九日香雲寺羅叟宗俊和尚寂

二四一五	二四一六	二四一七	二四一八	二四一九	二四二〇	二四二一	二四二二	二四二三	二四二四
丙二二六	丁二二七	戊二二八	己二二九	庚二三〇	辛二三一	壬二三二	癸二三三	甲二三四	乙二三五
戌六	亥七	子八	丑九	寅〇	卯一	辰二	巳三	午四	未五
後土御門天皇 文正元	應仁元	同同	文明元	同同	同同	同同	同同	同同	同同
元	元	二	元	二	三	四	五	六	七
一四五	一四六	一四七	一四八	一四九	一五〇	一五一	一五二	一五三	一五四
四二八	四二七	四二六	四二五	四二四	四二三	四二二	四二一	四二〇	四一九
正月廿八日天王寺正海慈孝和尚寂	正月十九日瑞龍寺實慈祥參和尚寂 七月十三日圓通寺古山崇永和和尚寂	五月廿四日龍文寺器之爲璠和尚寂 七月廿一日福昌寺心巖真信和尚寂	正月廿四日洞福院瑚海仲理和尚寂	二月朔日龍溪院盧嶽等都和尚寂 十二月廿八日開元院月泉性印和尚寂	九月廿七日圓通寺竹馬光篤和尚寂	九月十四日龍門寺青岑珠鷹和尚寂	二月廿五日青蓮寺禪室珍目和尚寂 三月廿七日華光寺大功圓忠和尚寂	五月廿六日雲林寺明室覺證和尚寂 十一月廿九日大乘寺紹謙堅隆和尚寂	五月廿六日慶田寺海門興德和尚寂

二四二五	二四二六	二四二七	二四二八	二四二九	二四三〇	二四三一	二四三二	二四三三	二四三四
丙二二六	丁二二七	戊二二八	己二二九	庚二三〇	辛二三一	壬二三二	癸二三三	甲二三四	乙二三五
申六	酉七	戌八	亥九	子〇	丑一	寅二	卯三	辰四	巳五
同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同
八	九	〇	一	二	三	四	五	六	七
一五五	一五六	一五七	一五八	一五九	一六〇	一六一	一六二	一六三	一六四
四一八	四一七	四一六	四一五	四一四	四一三	四一二	四一一	四一〇	四〇九
正月廿六日慶田寺海門興德和尚寂	十二月九日廣嚴院雲岫宗龍和尚寂	九月廿一日國分寺浦菴宗睦和尚寂	六月六日龍泰寺華叟正尊和尚寂 七月五日耕雲寺太安梵守和尚寂 十月十七日定津院拈笑宗英和尚寂	四月十九日茂林寺大林正通和尚寂 九月廿二日寶善院安叟宗楞和尚寂 十二月十三日東昌寺即菴宗覺和尚寂	三月十二日心月寺桃菴禪洞和尚寂 十一月十四日龍穩寺泰叟妙康和尚寂				

二四三五	丙二一四六	後土御門天皇	一六五	四〇八	正月廿六日長松院石室永瑞和尚寂 二月八日洞松寺茂林芝繁和尚寂 三月五日洞與寺牛欄監心和尚寂 永泉寺玉岡慶琳和尚寂 九月九日藏春院實山永秀和尚寂 十月十八日寶福寺隆爲永輝和尚寂 十一月廿四日香勝寺愚丘妙智和尚寂 十一月廿四日雙林寺一州正伊和尚寂
二四三六	丁二一四七	長亨	一六六	四〇七	正月廿二日青蓮寺華庭真椿和尚寂 八月十五日乾坤院逆翁宗順和尚寂
二四三七	戊二一四八	同同	一六七	四〇六	
二四三八	己二一四九	延同德	一六八	四〇五	七月廿四日眞如寺密山正嚴和尚寂 十一月十日歎盛院大虛自圓和尚寂
二四三九	庚二一五〇	同同	一六九	四〇四	七月九日大雄院南極壽星和尚寂
二四四〇	辛二一五一	同同	一七〇	四〇三	七月八日華光寺英崑希雄和尚寂
二四四一	壬二一五二	明應	一七一	四〇二	明應年間ヨリ總持寺門派ノ者永平寺山房ノ地ニ於テ轉衣ヲ爲スノ遠規ヲ企テ 正月六日圓通寺傳藏品隆和尚寂 十一月十二日天澤寺隆獻宗俊和尚寂 十一月廿八日龍淵寺隆雲祖旭和尚寂
二四四二	癸二一五三	同同	一七二	四〇一	正月十三日圓通寺雷庵性隆和尚寂 十二月廿六日大中寺快庵妙慶和尚寂
二四四三	甲二一五四	同同	一七三	四〇〇	
二四四四	乙二一五五	同同	一七四	三九九	二月七日廣澤寺天宙梵清和尚寂 十二月十日大寧寺全岩東純和尚寂

(三〇)

二四四五	丙二一五六	同同	一七五	三九八	閏二月七日最勝寺風庵美顯和尚寂 五月二日龍華院桂節宗昌和尚寂 六月十九日長祿寺月窓明禪和尚寂 八月月十二日總持寺心窓宗傳和尚寂 十月廿七日石雲院崇芝性信和尚寂
二四四六	丁二一五七	同同	一七六	三九七	
二四四七	戊二一五八	同同	一七七	三九六	三月四日龍華院天巽慶順和尚寂 三月十日元性院大有良榮和尚寂 八月宗德寺玉叟良珍和尚寂
二四四八	己二一五九	同同	一七八	三九五	
二四四九	庚二一六〇	同同	一七九	三九四	八月十日成高寺傑傳禪長和尚寂 八月十七日龍穆寺天庵玄齡和尚寂
二四五〇	辛二一六一	後柏原天皇	一八〇	三九三	正月五日瑞泉寺龜阜豐壽和尚寂 二月廿二日最興寺天倫正挺和尚寂 十月廿四日福昌泰雲守琮和尚寂
二四五一	壬二一六二	同同	一八一	三九二	三月廿五日龍華院四湖良景和尚寂 四月廿七日洞壽院以眞長佑和尚寂 六月四日洞慶院大慶宗梅和尚寂 九月五日大澤寺總方祖清和尚寂
二四五二	癸二一六三	同同	一八二	三九一	四月十八日關川寺大嶽祖益和尚寂
二四五三	甲二一六四	永正	一八三	三九〇	七月二日乘國寺松庵宗榮和尚寂 八月七日修善寺隆溪繁紹和尚寂 十月十四日雙林寺曇英慧應和尚寂
二四五四	乙二一六五	同同	一八四	三八九	二月十一日圓通寺松堂高盛和尚寂 三月八日大寧寺足繁永滿和尚寂 七月廿三日淨眼寺大空玄虎和尚寂 八月九日妙圓寺茂昌隆和和尚寂 十月九日眞珠院大寧了和和尚寂 十二月廿二日天澤寺明江德舜和尚寂

從明治廿六

二四五五	丙二一六六	寅	後柏原天皇	一八五	三八八	六月廿六日頭陀寺栽松青牛和尙寂 八月二日大乘寺幾年豐隆和尙寂
二四五六	丁二一六七	卯	同	一八六	三八七	七月四日洞泉寺陳明進和尙寂 八月十六日松岳寺櫻堂永德和尙寂 十月十七日景勝寺大洞存長和尙寂 十一月廿六日洞泉院無外球育和尙寂 十一月四日真珠院寶應院和尙寂
二四五七	戊二一六八	辰	同	一八七	三八六	十月三日永明寺秀峰繁俊和尙寂 十一月十七日長生寺積桂自德和尙寂
二四五八	己二一六九	巳	同	一八八	三八五	六月六日永昌院一華文英和尙寂
二四五九	庚二一七〇	午	同	一八九	三八四	四月廿七日梅林院界巖繁超和尙寂
二四六〇	辛二一七一	未	同	一九〇	三八三	三月廿四日成高寺天英祥貞和尙寂 六月十四日雲門寺牧中正授和尙寂 九月增善寺辰應性實和尙寂
二四六一	壬二一七二	申	同	一九一	三八二	四月廿三日定津院悅堂英穆和尙寂 六月廿四日林叟院賢仲繁哲和尙寂 十一月廿六日東昌寺能山聚藝和尙寂
二四六二	癸二一七三	酉	同	一九二	三八一	四月四日一雲齋大年祥椿和尙寂
二四六三	甲二一七四	戌	同	一九三	三八〇	八月十九日觀勝院功嚴玄策和尙寂 八月廿六日桃源寺越溪藤島和尙寂 十一月二日安樂寺玄室守殿和尙寂 十二月五日福昌寺龍室真從和尙寂
二四六四	乙二一七五	亥	同	一九四	三七九	四月十一日常牧寺明窓志宣和尙寂 四月廿四日光嚴東海宗洋和尙寂 六月十九日大祥寺行之正順和尙寂

(三三)

二四六五	丙二一七六	子	同	一九五	三七八	三月十七日洞泉院鑿室與康和尙寂 五月八日龍泉寺仙林性南和尙寂 五月十五日青松寺雪岡輝和尙寂 五月廿四日慈照寺眞霧宗見和尙寂 九月廿六日觀勝院靈芝俊和尙寂
二四六六	丁二一七七	丑	同	一九六	三七七	大靈寺天甫存佐和尙寂
二四六七	戊二一七八	寅	同	一九七	三七六	二月八日龍泉寺盛輝洞泉和尙寂 四月六日可羅密大路一蓮和尙寂 六月廿一日瑞瑞光寺純岳瑞見和尙寂 二月廿四日慈照寺眞霧宗見和尙寂 九月廿六日觀勝院靈芝俊和尙寂
二四六八	己二一七九	卯	同	一九八	三七五	十月七日龍淵寺惟通桂儒和尙寂
二四六九	庚二一八〇	辰	同	一九九	三七四	三月十一日龍華院孝山祚養和尙寂
二四七〇	辛二一八一	巳	大永元	二〇〇	三七三	六月朔日青松寺普山彭壽和尙寂 七月廿三日管天寺東洲周道和尙寂 七月廿六日福昌寺一川智濟和尙寂
二四七一	壬二一八二	午	同	二〇一	三七二	八月廿八日千光寺默岩爲契和尙寂
二四七二	癸二一八三	未	同	二〇二	三七一	五月廿八日泉龍寺克補契巖和尙寂 七月十六日天王院能庵明鑑和尙寂
二四七三	甲二一八四	申	同	二〇三	三七〇	一雲齋川僧繼濟和尙寂 正月廿日大中寺培芝正悅和尙寂 四月廿日龍泉寺圓夫慶文和尙寂 五月十四日輪王寺天初榮源和尙寂 九月廿九日大泉寺天桂輝長和尙寂 十二月八日永昌寺菊屋瑞圓和尙寂
二四七四	乙二一八五	酉	同	二〇四	三六九	二月二日妙喜寺九江慈淵和尙寂 六月廿日歸應寺順慶慶隨和尙寂

從明治廿六

入滅紀年 即位紀年 歷代年號 宗名紀元

二四七五	二四七六	二四七七	二四七八	二四七九	二四八〇	二四八一	二四八二	二四八三	二四八四
丙二一八六	丁二一八七	戊二一八八	己二一八九	庚二一九〇	辛二一九一	壬二一九二	癸二一九三	甲二一九四	乙二一九五
戌六	亥七	子八	丑九	寅〇	卯一	辰二	巳三	午四	未五
後柏原天皇	後奈良天皇	享祿	同	同	同	天文	同	同	同
六	七	元	元	三	四	元	二	三	四
二〇五	二〇六	二〇七	二〇八	二〇九	二一〇	二一一	二一二	二一三	二一四
三六八	三六七	三六六	三六五	三六四	三六三	三六二	三六一	三六〇	三五九
二月十五日圓成寺季雲永繼和尙寂	二月廿五日香積寺大緣文貞和尙寂 廿七日雞足寺天海舜政和尙寂	正月十二日龍華院輝山宗珠和尙寂 十三日日本光寺大朝宗賀和尙寂	二月廿五日長興寺久峰文昌和尙寂 月十八日圓通寺安室永忍和尙寂	十一月廿日總持寺如幻宗悟和尙寂		二月四日福昌寺天佑宗津和尙寂 史順孝和尙寂 月朔日安樂寺華屋英盛和尙寂	正月九日總世忠室宗孝和尙寂 全久院巧安順智和尙寂	四月三日雲興寺永山本興和尙寂	

(三四)

二四八五	二四八六	二四八七	二四八八	二四八九	二四九〇	二四九一	二四九二	二四九三	二四九四
丙二一九六	丁二一九七	戊二一九八	己二一九九	庚二二〇〇	辛二二〇一	壬二二〇二	癸二二〇三	甲二二〇四	乙二二〇五
申六	酉七	戌八	亥九	子〇	丑一	寅二	卯三	辰四	巳五
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
五	六	七	八	九	〇	一	二	三	四
二一五	二一六	二一七	二一八	二一九	二二〇	二二一	二二二	二二三	二二四
三五八	三五七	三五六	三五五	三五四	三五三	三五二	三五五	三五〇	三四九
二月一日大祥寺寂照宗新和尙寂 日大乘寺提室智剛和尙寂 寺喜州玄欣和尙寂	八月四日福昌寺大鷹宗俊和尙寂	正月九日大中寺圭庵伊白和尙寂 三日洞壽院雪窓鳳積和尙寂 日芳春寺觀雲慈音和尙寂	正月廿五日廣嚴寺俊室桂彦和尙寂 賜天 十二月二日法性寺靈龍景春和尙寂	二月十四日圓通寺折桂全衷和尙寂 天皇德持寺ニ永平寺出世停止ノ繪旨ヲ賜フ 永平寺ノ出世轉衣停止セララル	十月三日多寶院少傳宗閣和尙寂 廿三日龍穩寺節庵真筠和尙寂 十日龍海院模外惟俊和尙寂	七月十八日吉祥寺青岩周陽和尙寂		十一月六日長安寺受天榮祐和尙寂	九月八日天祐寺春岡楊富和尙寂

(三五)

從明治廿六

二四九五	二四九六	二四九七	二四九八	二四九九	二五〇〇	二五〇一	二五〇二	二五〇三	二五〇四
丙二二〇六	丁二二〇七	戊二二〇八	己二二〇九	庚二二一〇	辛二二一一	壬二二一二	癸二二一三	甲二二一四	乙二二一五
午六	未七	申八	酉九	戌〇	亥一	子二	丑三	寅四	卯五
後柏原天皇 天文一五	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	弘治元
二二五	二二六	二二七	二二八	二二九	二三〇	二三一	二三二	二三三	二三四
三四八	三四七	三四六	三四五	三四四	三四三	三四二	三四一	三四〇	三三九
八月廿八日玉龍寺桂巖慧芳和尚寂	四月七日大寧寺奇伯瑞龍和尚寂 九月十日寶光寺以船文濟和尚寂	正月廿三日洞壽院梅巖與芬和尚寂 十一月福昌寺恕岳文忠和尚寂	四月五日永福寺慶香省賀和尚寂	八月十日圓應寺了然永超和尚寂	正月廿五日龍雲寺大用宗俊和尚寂				

二五〇五	二五〇六	二五〇七	二五〇八	二五〇九	二五〇〇	二五〇一	二五〇二	二五〇三	二五〇四
丙二二一六	丁二二一七	戊二二一八	己二二一九	庚二二二〇	辛二二二一	壬二二二二	癸二二二三	甲二二二四	乙二二二五
辰六	巳七	午八	未九	申〇	酉一	戌二	亥三	子四	丑五
同同	同同	正親町天皇 永祿元	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同
二	三	二	二	三	四	五	六	七	八
二三五	二三六	二三七	二三八	二三九	二四〇	二四一	二四二	二四三	二四四
三三八	三三七	三三六	三三五	三三四	三三三	三三二	三三一	三三〇	三二九
二月廿九日安樂寺喜山宗忻和尚寂	五月九日洞雲寺只山宗友和尚寂	三月七日廣嚴寺箇學光真和尚寂 四月一日菩提寺朝山芳暎和尚寂 六月廿日延命寺吉州梵貞和尚寂	四月廿九日圓通寺虛屋性宙和尚寂	八月十七日全久院光國舜玉和尚寂	四月廿二日萬松寺大雲永瑞和尚寂	四月十日圓通寺圓芝清馨和尚寂 八月十九日大寧寺龜祥宗鑑和尚寂	五月十八日安樂寺泰庵文賢和尚寂 十月十七日大寧寺異雪慶珠和尚寂	五月八日心源寺傑山道逸和尚寂 五月十日圓通寺大透宗的和尚寂 七月八日乾晨寺自山臨罷和尚寂	

二五一五	二五一六	二五一七	二五一八	二五一九	二五二〇	二五二一	二五二二	二五二三	二五二四
丙二二二 寅六	丁二二二 卯七	戊二二二 辰八	己二二二 巳九	庚二二三 午〇	辛二二三 未一	壬二二三 申二	癸二二三 酉三	甲二二三 戌四	乙二二三 亥五
正親町天皇 永祿九	同	同	同	元龜	同	同	天正	同	同
九	〇	一	二	元	二	三	元	二	三
二四五 三二八	二四六 三二七	二四七 三二六	二四八 三二五	二四九 三二四	二五〇 三二三	二五一 三二二	二五二 三二一	二五三 三二〇	二五四 三一九
八月八日長安寺龍湫玄叡和尚寂		二月廿五日龍文寺隆室智丘和尚寂		總持寺ノ繪文兵燹ノ爲メ燒失ス 二月十日林泉寺益翁宗謙和尚寂		正月廿三日青松寺在天宗鳳和尚寂	天正年間永平寺ハ總持寺繪文燒失ニ就キ異論ヲ企テ謀擧ヲ爲ス總持寺之ニ防訴ス	四月廿八日全久院萬休永歲和尚寂	

二五二五	二五二六	二五二七	二五二八	二五二九	二五三〇	二五三一	二五三二	二五三三	二五三四
丙二二三 子六	丁二二三 丑七	戊二二三 寅八	己二二三 卯九	庚二二四 辰〇	辛二二四 巳一	壬二二四 午二	癸二二四 未三	甲二二四 申四	乙二二四 酉五
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
四	五	六	七	八	九	〇	一	二	三
二五五 三一八	二五六 三一七	二五七 三一六	二五八 三一五	二五九 三一四	二六〇 三一三	二六一 三一二	二六二 三一	二六三 三一〇	二六四 三〇九
四月十四日大乘寺雪窓祐補和尚寂	正月十五日大寧寺繁興存榮和尚寂		正月四日林泉寺泰室宗慧和尚寂 十二月五日安樂寺大龍存守和尚寂					八月二日龍穩寺天室禪睦和尚寂	正月七日多寶院獨峯存雄和尚寂 六月廿五日青松寺久室玄長和尚寂

二五三五	二五三六	二五三七	二五三八	二五三九	二五四〇	二五四一	二五四二	二五四三	二五四四
丙二二四六	丁二二四七	戊二二四八	己二二四九	庚二二五〇	辛二二五一	壬二二五二	癸二二五三	甲二二五四	乙二二五五
正親町天皇	後陽成天皇	同	同	同	同	文祿	同	同	同
一四	一五	一六	一七	一八	一九	元	二	三	四
二六五	二六六	二六七	二六八	二六九	二七〇	二七一	二七二	二七三	二七四
三〇八	三〇七	三〇六	三〇五	三〇四	三〇三	三〇二	三〇一	三〇〇	二九九
二月廿一日宗廟寺瑞泉和尚寂 四月廿六日皎月院玉田存麟和尚寂 十二月二日龍雲寺北高全祝和尚寂		十月十六日大中寺天嶺香補和尚寂	六月廿七日後陽成天皇總持寺曹洞ノ本寺トシテ轉衣特許ノ給旨ヲ賜フ 天正年間ノ紛爭此年ヲ以テ總持寺ノ利運ニ歸ス	五月廿一日可睡齋鳳山等贈和尚寂 五月廿九日龍穩寺梅窓隣芳和尚寂	十月十五日廣嚴寺拈提依因和尚寂 十月廿二日後陽成天皇永平寺ニ曹洞ノ本寺トシテ轉衣特許ノ給旨ヲ賜フ 十二月廿五日全久院九峯如瑞和尚寂	十月八日全久院浮翁全棧和尚寂		三月十九日桐岳寺龍岳道門和尚寂	

(四〇)

二五四五	二五四六	二五四七	二五四八	二五四九	二五五〇	二五五一	二五五二	二五五三	二五五四
丙二二五六	丁二二五七	戊二二五八	己二二五九	庚二二六〇	辛二二六一	壬二二六二	癸二二六三	甲二二六四	乙二二六五
慶長	同	同	同	同	同	同	同	同	同
元	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇
二七五	二七六	二七七	二七八	二七九	二八〇	二八一	二八二	二八三	二八四
二九八	二九七	二九六	二九五	二九四	二九三	二九二	二九一	二九〇	二八九
慶長年間幕府宗門ニ干渉シ總持寺末派ヨリ永平寺ヘ昇住スルノ濫階ヲ築ク 六月廿九日青松寺瑞翁俊徳和尚寂	五月廿一日菩提寺領山英順和尚寂 七月三日禪定寺宣安明言和尚寂	九月廿日寶圓寺大透圭徐和尚寂 九月廿五日大龍寺笑巖宗閣和尚寂	七月朔日青松寺頭室伊天和和尚寂			十一月廿四日龍穩寺朝谷是暎和尚寂 十二月廿日福昌寺天海正曼和尚寂	二月十五日大寧寺關翁珠門和尚寂 四月七日宗賢寺真翁宗龍和尚寂 十月廿一日廣嚴寺吉岫舜利和尚寂	十二月大寧寺安叟珠養和尚寂	二月十九日安樂寺大室永廓和尚寂

(四一)

從明治廿六

二五五五	丙二二六六	後陽成天皇 慶長一一	二八五	二八八	
二五五六	丁二二六七	同	二八六	二八七	五月廿七日廣嚴寺三嶺巖龍和尚寂
二五五七	戊二二六八	同	二八七	二八六	總持寺山門建立 二月廿八日孝顯寺舜國 洞壽和尚寂 九月朔日福昌寺大麟全索和 和尚
二五五八	己二二六九	同	二八八	二八五	象山和尚芳春院ヲ建立ス
二五五九	庚二二七〇	同	二八九	二八四	五月十八日玉龍寺覺翁慧等和尚寂
二五六〇	辛二二七一	同	二九〇	二八三	七月總持寺後見芳春院象山和尚駿府城ニ 於テ家康公ニ謁見宗門ノ規繩等ヲ陳述ス
二五六一	壬二二七二	同 後水尾天皇	二九一	二八二	象山和尚ノ推撰ニ依リ總持寺龍德寺大中 寺關東ノ僧録ト成ル 五月廿八日家康公 宗門法度ヲ定ム
二五六二	癸二二七三	同	二九二	二八一	九月十五日總持寺棟室建梁和尚寂 十月 幕府切支丹邪宗門ノ儀ニ付宗門寺檀那請 合控十五箇條ヲ定ム
二五六三	甲二二七四	同	二九三	二八〇	正月廿八日永源寺大賀良鐘和尚寂
二五六四	乙二二七五	同 元和	二九四	二七九	正月十四日福昌寺南嶺慶隆和尚寂 四月一日安樂寺紹 屋昌隆和尚寂 七月家康公永平寺總持寺ノ法度ヲ定ム 八月廿日加州侯利光總持寺法度九箇條ヲ定ム

(四二)

二五六五	丙二二七六	同	二九五	二七八	二月八日福昌寺三丁巖達和尚寂 八月十 一日勝光院天永琳達和尚寂 長源寺國岩 大佐和尚寂
二五六六	丁二二七七	同	二九六	二七七	正月十八日守光院大雲文龍和尚寂 九月 廿三日福昌寺大川長益和尚寂
二五六七	戊二二七八	同	二九七	二七六	
二五六八	己二二七九	同	二九八	二七五	五月廿四日芳春院象山徐雲和尚寂 七月 廿五日大寧寺貴雲巖胤和尚寂
二五六九	庚二二八〇	同	二九九	二七四	三月寺社奉行ヨリ總持寺へ目代之制狀ヲ 附與ス
二五七〇	辛二二八一	同	三〇〇	二七三	十一月廿六日泉岳寺門庵宗關和尚寂
二五七一	壬二二八二	同	三〇一	二七二	正月廿一日天增寺天室伊堯和尚寂 三月 十五日寶圓寺量山繁應和尚寂
二五七二	癸二二八三	同	三〇二	二七一	正月十四日瑞龍寺廣山恕陽和尚寂 十一 月八日青松寺一峯麟曹和尚寂
二五七三	甲二二八四	同 元永	三〇三	二七〇	寬永年間ニ幕府ヨリ本末改アリ
二五七四	乙二二八五	同	三〇四	二六九	

(四三)

入滅紀年 即位紀年 歷代年號 宗名紀元

二五七五	丙二二八寅六	後水尾天皇	三〇五	二六八	
二五七六	丁二二八卯七	同	三〇六	二六七	秋永平寺大寺連列ヲ以テ出世釋衣ノ儀ニ付謀學ヲ企テ釋衣僧三十四名ノ衣禮ヲ制奪シ傳授ヲ欲キ幕府老中ノ印書ヲ偽造ス十一月十七日福昌寺代總守哲和尙寂
二五七七	戊二二八辰八	同	三〇七	二六六	總持寺永平寺ノ謀學ニ防訴ス
二五七八	己二二八巳九	同	三〇八	二六五	六月廿二日永平寺總持寺公事落居 永平寺昨天和尙大寺松齋長老各流拜 冬總持寺五院廻國 八月十三日五院列扶桑國會宗法度ヲ定ム
二五七九	庚二二九午〇	明正天皇	三〇九	二六四	八月十三日天下大僧錄及ヒ僧錄五十餘箇所ヲ定ム
二五八〇	辛二二九未一	同	三一〇	二六三	福昌寺日鑑壽益和尙寂
二五八一	壬二二九申二	同	三一〇	二六二	
二五八二	癸二二九酉三	同	三一〇	二六一	
二五八三	甲二二九戌四	同	三一〇	二六〇	
二五八四	乙二二九亥五	同	三一〇	二五九	六月廿五日全久院特雄專英和尙寂 九月廿三日可睡齋士墨采山和尙寂

(四四)

二五八五	丙二二九子六	同	三一五	二五八	宗智寺不鐵桂文和尙寂
二五八六	丁二二九丑七	同	三一六	二五七	
二五八七	戊二二九寅八	同	三一七	二五六	十月五日宗開寺松州達翁和尙寂 十月十二日大寧寺鐵村玄慈和尙寂
二五八八	己二二九卯九	同	三一八	二五五	
二五八九	庚二三〇辰〇	同	三一九	二五四	
二五九〇	辛二三〇巳一	同	三二〇	二五三	
二五九一	壬二三〇午二	同	三二一	二五二	六月廿四日妙圓寺睿叟全珠和尙寂
二五九二	癸二三〇未三	同	三二二	二五一	
二五九三	甲二三〇申四	後光明天皇	三二三	二五〇	十一月廿八日龍泰寺天庵全堯和尙寂
二五九四	乙二三〇酉五	同	三二四	二四九	四月廿九日後光明天皇總持寺ニ後醍醐天皇繪旨燒失ニ關スル繼繪旨ヲ賜フ

(四五)

從明治廿六

二五九五	丙二三〇六	後光明天皇 正保三	三二五	二四八	三月十一日青松寺十洲補道和尙寂
二五九六	丁二三〇七	同同	三二六	二四七	
二五九七	戊二三〇八	慶安元	三二七	二四六	正月廿七日寶圓寺泰山雲堯和尙寂
二五九八	己二三〇九	同同	三二八	二四五	九月十日皓臺寺雪山鶴巖和尙寂
二五九九	庚二三一〇	同同	三二九	二四四	正月元日寶圓寺關室徐天和尙寂
二六〇〇	辛二三一一	同同	三三〇	二四三	
二六〇一	壬二三一二	承應元	三三一	二四二	總持寺英俊和尙永平寺入院 承應年間ヨリ關東三刹ニ限リ永平寺へ昇住スルノ謀願ヲ企ツ
二六〇二	癸二三一三	同同	三三二	二四一	八月二日全久院天外梵舜和尙寂
二六〇三	甲二三一四	同同	三三三	二四〇	八月廿一日興聖寺萬安英種和尙寂
二六〇四	乙二三一五	後西天皇 明曆元	三三四	二三九	十一月十三日青松寺心靈牛道和尙寂

二六〇五	丙二三一六	同同	三三五	二三八	九月五日青松寺高岩薰道和尙寂
二六〇六	丁二三一七	同同	三三六	二三七	總持寺松嶺和尙正義ヲ以テ幕府ニ抗シ奇禍ヲ得テ津輕家ニ召預クラル 加州侯ヨリ總持寺へ寺領四百石ヲ寄附ス 八月晦日中納言利常總持寺定書十三箇條ヲ付ス
二六〇七	戊二三一八	萬治元	三三七	二三六	延命寺門湊和尙永平寺入院
二六〇八	己二三一九	同同	三三八	二三五	七月十日國照寺一庭融順和尙寂
二六〇九	庚二三二〇	同同	三三九	二三四	龍穩寺御州和尙永平寺入院 幕府關東三刹ノ永平寺昇住ヲ許可ス
二六一〇	辛二三二一	寛文元	三四〇	二三三	
二六一一	壬二三二二	同同	三四一	二三二	十二月廿五日宗關寺北巖寅嘯和尙寂
二六一二	癸二三二三	靈元天皇	三四二	二三一	九月廿一日東向寺中華桂法和尙寂
二六一三	甲二三二四	同同	三四三	二三〇	總持寺光紹和尙永平寺入院
二六一四	乙二三二五	同同	三四四	二二九	七月十一日家綱公朱印ヲ以テ諸宗へ二箇條ノ條目ヲ定ム

入滅紀年 即位紀年 歷代年號 宗名紀元

二六一五	丙二二六	寬元天皇	六	三四五	二二八	
二六一六	丁二二七	同	七	三四六	二二七	
二六一七	戊二二八	同	八	三四七	二二六	
二六一八	己二二九	同	九	三四八	二二五	
二六一九	庚二三〇	同	一〇	三四九	二二四	大中寺尊海和尚永平寺入院 八月十四日 大乘寺白峯玄濁和尚寂
二六二〇	辛二三一	同	一一	三五〇	二二三	
二六二一	壬二三二	同	一二	三五二	二二二	四月三日興聖寺懶禪舜融和尚寂 五月三 日大乘寺超山關越和尚寂
二六二二	癸二三三	延寶	元	三五二	二二一	八月六日長昌寺明堂正智和尚寂
二六二三	甲二三四	同	二	三五三	二二〇	二月廿七日寶圓寺傑外雲英和尚寂
二六二四	乙二三五	同	三	三五四	二一九	

(四八)

二六二五	丙二三六	同	四	三五五	二一八	龍穩寺愚門和尚永平寺入院
二六二六	丁二三七	同	五	三五六	二一七	九月十八日青松寺不中秀的和尚寂 十一 月十八日社奉行ヨリ關東三刹へ三寺和 融宗用取計向等五箇條ノ覺書ヲ下附ス
二六二七	戊二三八	同	六	三五七	二一六	
二六二八	己二三九	同	七	三五八	二一五	總寧寺徹翁和尚永平寺入院
二六二九	庚二四〇	同	八	三五九	二一四	正月廿八日全久院鐵心道印和尚寂 六月 二日大禪寺默玄元寂和尚寂
二六三〇	辛二四一	天和	元	三六〇	二一三	三月廿日青松寺獅岩梅附和尚寂 十二月 八日真成院悅岩不禪和尚寂
二六三一	壬二四二	同	二	三六一	二一二	十一月一日興聖寺龍蟠松雲和尚寂
二六三二	癸二四三	同	三	三六二	二一一	九月十九日法嚴寺洞水雲溪和尚寂
二六三三	甲二四四	貞享	元	三六三	二一〇	
二六三四	乙二四五	同	二	三六四	二〇九	九月十日登山見雪和尚寂

(四九)

從明治廿六

入滅紀年 即位紀年 歷代年號 宗名紀元

二六三五	丙二三四寅	貞元天皇	三六五	二〇八	龍穩寺高郁和尚永平寺入院
二六三六	丁二三四卯	東山天皇	三六六	二〇七	六月三日船臺寺月舟宗林和尚寂 府宗門ニ對スル十二箇條ノ條目ヲ定ム
二六三七	戊二三四辰	元祿元	三六七	二〇六	龍穩寺晃全和尚永平寺入院
二六三八	己二三四巳	同同	三六八	二〇五	四月六日海藏寺大川音龍和尚寂
二六三九	庚二三五午	同同	三六九	二〇四	
二六四〇	辛二三五未	同同	三七〇	二〇三	三月七日天祐寺桂堂香林和尚寂
二六四一	壬二三五申	同同	三七一	二〇二	
二六四二	癸二三五酉	同同	三七二	二〇一	總寧寺本祝和尚永平寺入院
二六四三	甲二三五戌	同同	三七三	二〇〇	十一月廿二日大中寺連山交易和尚寂
二六四四	乙二三五亥	同同	三七四	一九九	五月廿八日香積寺普峯京順和尚寂

(五〇)

二六四五	丙二三五子	同同	三七五	一九八	正月十日大乘寺月舟宗胡和尚寂 二月朔日興聖寺高雲祖稜和尚寂 九月廿九日祇園寺心越興倫和尚寂
二六四六	丁二三五丑	同同	三七六	一九七	三月十五日宗關寺舜山補澤和尚寂
二六四七	戊二三五寅	同同	三七七	一九六	二月十一日皓臺寺獨庵玄光和尚寂
二六四八	己二三五卯	同同	三七八	一九五	大中寺天梁和尚永平寺入院 八月廿日寶圓寺月融虎白和尚寂
二六四九	庚二三六辰	同同	三七九	一九四	
二六五〇	辛二三六巳	同同	三八〇	一九三	
二六五一	壬二三六午	同同	三八一	一九二	二月十八日成合寺雲山愚白和尚寂
二六五二	癸二三六未	同同	三八二	一九一	八月七日己山梅峯二和尚ノ盡力ニ依リ江戸奉行所ニ於テ一師印證ノ復古并ニ伽藍法ノ制定成ル
二六五三	甲二三六申	寶永元	三八三	一九〇	
二六五四	乙二三六酉	同同	三八四	一八九	

從明治廿六

(五一)

二六五五	丙二三六六	東山天皇	三八五	一八八	
二六五六	丁二三六七	寶永天皇	三八六	一八七	十一月十九日興聖寺梅峯竺信和尚寂
二六五七	戊二二六八	同	三八七	一八六	總持寺嚴柳和尚永平寺入院 十月十三日 大寧寺痴絕傳心和尙寂
二六五八	己二三六九	同	三八八	一八五	二月七日西來寺德翁良高和尚寂 十二月 三日全久院香山淳頌和尚寂
二六五九	庚二三七〇	中御門天皇	三八九	一八四	七月十六日寶圓寺丹嶺祖夷和尚寂
二六六〇	辛二三七一	正德	三九〇	一八三	
二六六一	壬二三七二	同	三九一	一八二	
二六六二	癸二三七三	同	三九二	一八一	四月廿五日萬松寺惟慧道定和尚寂
二六六三	甲二三七四	同	三九三	一八〇	八月十九日大乘寺記山道白和尚寂 十月 廿日峩山禪師三百五十回忌ヲ修ス
二六六四	乙二三七五	同	三九四	一七九	

二六六五	丙二三七六	享保	三九五	一七八	
二六六六	丁二三七七	同	三九六	一七七	龍穩寺則地和尙永平寺入院 十月廿六日 青松寺如實秀本和尚寂
二六六七	戊二三七八	同	三九七	一七六	
二六六八	己二三七九	同	三九八	一七五	
二六六九	庚二三八〇	同	三九九	一七四	
二六七〇	辛二三八一	同	四〇〇	一七三	
二六七一	壬二三八二	同	四〇一	一七二	四月關東三刹寺社奉行ニ經伺シ兩本山ノ 家訓ヲ守ルヘキ觸達ヲ發ス
二六七二	癸二三八三	同	四〇二	一七一	
二六七三	甲二三八四	同	四〇三	一七〇	八月十五日總祖四百回忌ヲ修ス
二六七四	乙二三八五	同	四〇四	一六九	

二六七五	二三八六	中御門天皇	四〇五	一六八	三月二日全昌院單傳文清和尚寂
二六七六	二三八七	享保	四〇六	一六七	
二六七七	二三八八	同	四〇七	一六六	總持寺鳴玄和尚永平寺入院
二六七八	二三八九	同	四〇八	一六五	正月寺社奉行土岐丹波守本山職寺格ヲ取調フ
二六七九	二三九〇	同	四〇九	一六四	
二六八〇	二三九一	同	四一〇	一六三	
二六八一	二三九二	同	四一一	一六二	
二六八二	二三九三	同	四一二	一六一	
二六八三	二三九四	同	四一三	一六〇	
二六八四	二三九五	同	四一四	一五九	十二月十日陽松庵天桂傳尊和尚寂

(五四)

二六八五	二三九六	櫻町天皇	四一五	一五八	大中寺雄禪和尚永平寺入院
二六八六	二三九七	元文	四一六	一五七	十二月寺社奉行牧野越中守紫衣地寺格ヲ取調フ
二六八七	二三九八	同	四一七	一五六	
二六八八	二三九九	同	四一八	一五五	四月寺社奉行松平越中守紫衣地寺格ヲ取調フ
二六八九	二四〇〇	同	四一九	一五四	龍巖寺江寂和尚永平寺入院 五月五日通 幻禪師三百五十回忌ヲ修ス 十一月寺社 奉行牧野越中守綱代乗物ノ寺格ヲ取調フ
二六九〇	二四〇一	同	四二〇	一五三	
二六九一	二四〇二	同	四二一	一五二	
二六九二	二四〇三	同	四二二	一五一	寺社奉行本多紀伊守本山職寺格ヲ取調フ
二六九三	二四〇四	同	四二三	一五〇	延享年間幕府ヨリ本末改アリ
二六九四	二四〇五	同	四二四	一四九	

(五五)

從明治廿六

二七〇四	二七〇三	二七〇二	二七〇一	二七〇〇	二六九九	二六九八	二六九七	二六九六	二六九五
乙二四一 亥五	甲二四一 戌四	癸二四一 酉三	壬二四一 申二	辛二四一 未一	庚二四一 午〇	己二四〇 巳九	戊二四〇 辰八	丁二四〇 卯七	丙二四〇 寅六
同同	同同	同同	同同	寶曆 同同	同同	同同	寬延 同同	桃園天皇 同同	櫻町天皇 延享三
五	四	三	二	元	三	二	元	四	四
四三四	四三三	四三二	四三一	四三〇	四二九	四二八	四二七	四二六	四二五
一三九	一四〇	一四一	一四二	一四三	一四四	一四五	一四六	一四七	一四八
大中寺越宗和尚永平寺入院	六月十二日實峯禪師三百五十回忌ヲ修ス	春大同和尚等江戸ヨリ歸ル	通幻禪師四箇道場ノ件ニ付六月晦日妙高菴大同外二師江戸表ニ出頭ス		大中寺央元和和尚永平寺入院				

二七〇五	二七〇六	二七〇七	二七〇八	二七〇九	二七一〇	二七一〇	二七一〇	二七一〇	二七一〇
丙二四一 子六	丁二四一 丑七	戊二四一 寅八	己二四一 卯九	庚二四〇 辰〇	辛二四〇 巳一	壬二四〇 午二	癸二四〇 未三	甲二四〇 申四	乙二四〇 酉五
同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同
六	七	八	九	〇	一	二	三	四	五
四三五	四三六	四三七	四三八	四三九	四四〇	四四一	四四二	四四三	四四四
一三八	一三七	一三六	一三五	一三四	一三三	一三二	一三一	一三〇	一二九
	正月廿五日大徹禪師三百五十回忌ヲ修ス	龍穩寺湛海和尚永平寺入院						大中寺彌山和尚永平寺入院	

入滅紀年 即位紀年 歷代年號 宗名紀元

二七一五	二七一六	二七一七	二七一八	二七一九	二七二〇	二七二一	二七二二	二七二三	二七二四
丙二四二六	丁二四二七	戊二四二八	己二四二九	庚二四三〇	辛二四三一	壬二四三二	癸二四三三	甲二四三四	乙二四三五
後櫻町天皇	同	同	同	同	後桃園天皇	同	同	同	同
明和	同	同	同	同	安永	同	同	同	同
三	四	五	六	七	元	二	三	四	五
四四五	四四六	四四七	四四八	四四九	四五〇	四五二	四五三	四五四	四五五
一二八	一二七	一二六	一二五	一二四	一二三	一二二	一二一	一二〇	一一九
		龍穩寺董元和尙永平寺入院							
					十一月二十九日後桃園天皇總祖ニ弘徳間 明國師ノ號ヲ賜フ				

(五八)

二七二五	二七二六	二七二七	二七二八	二七二九	二七三〇	二七三一	二七三二	二七三三	二七三四
丙二四三六	丁二四三七	戊二四三八	己二四三九	庚二四四〇	辛二四四一	壬二四四二	癸二四四三	甲二四四四	乙二四四五
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
孝格天皇	同	同	同	天	同	同	同	同	同
九	八	七	六	五	元	二	三	四	五
四五五	四五六	四五七	四五八	四五九	四六〇	四六一	四六二	四六三	四六四
一一八	一一七	一一六	一一五	一一四	一一三	一一二	一一一	一一〇	一〇九

總寧寺台明和尙永平寺入院

(五九)

從明治廿六

二七三五	二七三六	二七三七	二七三八	二七三九	二七四〇	二七四一	二七四二	二七四三	二七四四
丙二四四午六	丁二四四未七	戊二四四申八	己二四四酉九	庚二四五戌〇	辛二四五亥一	壬二四五子二	癸二四五丑三	甲二四五寅四	乙二四五卯五
孝格天皇	天明	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同
六皇	七	八	元	二	三	四	五	六	七
四六五	四六六	四六七	四六八	四六九	四七〇	四七一	四七二	四七三	四七四
一〇八	一〇七	一〇六	一〇五	一〇四	一〇三	一〇二	一〇一	一〇〇	九九
大中寺大耕和尚永平寺入院		二月總持寺ヨリ出世轉衣ノ事ニ就キ諸國錄寺へ嚴達ヲ發ス							龍穩寺玄透和尚永平寺入院

二七四五	二七四六	二七四七	二七四八	二七四九	二七五〇	二七五一	二七五二	二七五三	二七五四
丙二四五辰六	丁二四五巳七	戊二四五午八	己二四五未九	庚二四六申〇	辛二四六酉一	壬二四六戌二	癸二四六亥三	甲二四六子四	乙二四六丑五
同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同
八	九	一〇	一一	一二	元	二	三	元	二
四七五	四七六	四七七	四七八	四七九	四八〇	四八一	四八二	四八三	四八四
九八	九七	九六	九五	九四	九三	九二	九一	九〇	八九
						玄透禪師小清規及古規表ヲ製作シ宗門一般ニ遵行セシメントシテ總持寺及ヒ大乗寺防訴ノ爲メ行ハレヌ儀ニ永平寺一山内限リ小清規ノ遵行ヲ許サル日永祖五百五十回忌ヲ修ス			

入滅紀年 即位紀年 歷代年號 宗名紀元

二七五五	二七五六	二七五七	二七五八	二七五九	二七六〇	二七六一	二七六二	二七六三	二七六四
丙二四六寅六	丁二四六卯七	戊二四六辰八	己二四六巳九	庚二四七午〇	辛二四七未一	壬二四七申二	癸二四七酉三	甲二四七戌四	乙二四七亥五
孝格天皇	文化	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同
三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
四八五	四八六	四八七	四八八	四八九	四九〇	四九一	四九二	四九三	四九四
八八	八七	八六	八五	八四	八三	八二	八一	八〇	七九
大中寺慧源和尙永平寺入院		總持寺宣峯和尙永平寺入院						龍穩寺爲海和尙永平寺入院	

6411

二七六五	二七六六	二七六七	二七六八	二七六九	二七七〇	二七七一	二七七二	二七七三	二七七四
丙二四七子六	丁二四七丑七	戊二四七寅八	己二四七卯九	庚二四八辰〇	辛二四八巳一	壬二四八午二	癸二四八未三	甲二四八申四	乙二四八酉五
同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同	同同
一三	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇
四九五	四九六	四九七	四九八	四九九	五〇〇	五〇一	五〇二	五〇三	五〇四
七八	七七	七六	七五	七四	七三	七二	七一	七〇	六九
		大中寺記海和尙永平寺入院			五月十三日龍穩寺大因和尙永平寺入院				龍穩寺雲居和尙永平寺入院

6412

從明治廿六

二七七五	二七七六	二七七七	二七七八	二七七九	二七八〇	二七八一	二七八二	二七八三	二七八四
丙二四八 戌六	丁二四八 亥七	戊二四八 子八	己二四八 丑九	庚二四九 寅〇	辛二四九 卯一	壬二四九 辰二	癸二四九 巳三	甲二四九 午四	乙二四九 未五
仁孝天皇 文政九	同	同	同	天保元	同	同	同	同	同
五〇五	五〇六	五〇七	五〇八	五〇九	五一〇	五一一	五一二	五一三	五一四
六八	六七	六六	六五	六四	六三	六二	六一	六〇	五九
	四月九日總持寺禹隣和尚永平寺入院			天保年間永平寺禹隣和尚永平寺入院ノ處遷化立牌 ヲ後嵯峨天皇ノ勅額ヲ撰筆セシム					

(六四)

二七八五	二七八六	二七八七	二七八八	二七八九	二七九〇	二七九一	二七九二	二七九三	二七九四
丙二四九 申六	丁二四九 酉七	戊二四九 戌八	己二四九 亥九	庚二五〇 子〇	辛二五〇 丑一	壬二五〇 寅二	癸二五〇 卯三	甲二五〇 辰四	乙二五〇 巳五
同	同	同	同	同	同	同	同	弘化元	同
七	八	九	〇	一	二	三	四	元	二
五一五	五一六	五一七	五一八	五一九	五二〇	五二一	五二二	五二三	五二四
五八	五七	五六	五五	五四	五三	五二	五一	五〇	四九
								龍穩寺道海和尚永平寺入院ノ處遷化立牌 總持寺觀禪和尚永平寺入院	

(六五)

從明治廿六

二七九五	二七九六	二七九七	二七九八	二七九九	二八〇〇	二八〇一	二八〇二	二八〇三	二八〇四
丙二五〇午六	丁二五〇未七	戊二五〇申八	己二五〇酉九	庚二五一戌〇	辛二五一亥一	壬二五一子二	癸二五一丑三	甲二五一寅四	乙二五一卯五
弘仁孝天三皇	孝明天皇	同	同	同	同	同	同	安政	同
五二五	五二六	五二七	五二八	五二九	五三〇	五三一	五三二	五三三	五三四
四八	四七	四六	四五	四四	四三	四二	四一	四〇	三九
		五月十八日大中寺臥雲和尚永平寺入院							

二八〇五	二八〇六	二八〇七	二八〇八	二八〇九	二八一〇	二八一〇	二八一〇	二八一〇	二八一〇
丙二五一辰六	丁二五一巳七	戊二五一午八	己二五一未九	庚二五二申〇	辛二五二酉一	壬二五二戌二	癸二五二亥三	甲二五二子四	乙二五二丑五
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
三	四	五	六	元	元	二	三	元	元
五三五	五三六	五三七	五三八	五三九	五四〇	五四一	五四二	五四三	五四四
三八	三七	三六	三五	三四	三三	三二	三一	三〇	二九
		四月六日社奉行ヨリ三衣事件從前ノ通タルヘキ申渡アリ兩山并ニ三利請書ヲ提出ス		二月九日社奉行ヨリ安政五年ノ申渡ニ異變セルノ定書ヲ發シ爲メニ總持寺ノ不利ト爲ル	七月廿七日前年ノ定書一轉シテ安政五年ノ裁斷ニ復シ三衣事件落着ス			八月義山禪師五百回忌ヲ修ス	

二八一五	丙二五二六	孝明天皇	二八	慶應	五四五	二七	五四六	二七	二八	春永平寺謀願ヲ企テ六月永平寺へ總本寺學寮ヲ立テ宗門制度頒布ノ公議ヲ遂クヘク總持寺へ獨住地ト爲シ總本寺へ昇住スヘシトノ沙汰アリ
二八一六	丁二五二七	今上天皇	二七	同	五四六	二七	五四六	二七	二八	四月各宗同盟會成ル 十二月昨年六月ノ沙汰ヲ取消シ兩寺共本山如故兩寺ノ未派轉任差止メ即チ兩山分派ノ沙汰アリ
二八一七	戊二五二八	明治元	元	同	五四七	二六	五四七	二六	二七	三月總持寺ノ願ニ依リ東京交ニ於テ御裁列云々トノ沙汰アリ 七月廿五日總持寺輪住廢止勅許ニ依リ天德院奕堂和尚住一世トシテ總持寺ニ入院ス 同日今上天皇奕堂和尚住一世トシテ總持寺ニ入院ス 同日今上天皇奕堂和尚住一世トシテ總持寺ニ入院ス
二八一八	己二五二九	同	二	同	五四八	二五	五四八	二五	二六	永平寺御擔ノ者結齋違規 四月總持寺ヲ輪番ニ復スルノ沙汰アリ 兩山未派交互轉住ヲ許ス 臥雲禪師寂ス 一月與聖寺環溪和尚永平寺入院
二八一九	庚二五三〇	同	三	同	五四九	二四	五四九	二四	二五	三月十四日教部省ヲ置キ教導職ヲ設ク 三月廿四日大藏省ノ演進ニ基キ同廿八日永平寺總持寺ノ盟約成ル 六月十三日環溪奕堂兩禪師大教正ニ補セラル 九月十日僧侶姓氏ヲ設ク
二八二〇	辛二五三一	同	四	同	五五〇	二三	五五〇	二三	二四	二月十九日寶洞宗名ヲ復稱シ暗濟黃葉ト分繼シテ各別ニ管長ヲ置ク 三月一日兩本山出張所ヲ寶洞宗務局ト稱ス 九月十五日總祖五百五十回忌ヲ修ス
二八二一	壬二五三二	同	五	同	五五一	二二	五五一	二二	二三	一月十三日御覽法ヲ廢止ス 同日能山五院ヲ廢シ其直末ヲ本山直末ニ列ス 五月三日專門學本校ヲ設ク 五月十八日日本宗大教院ヲ設ク 十一月十五日末派總持代會議ヲ開ク
二八二二	癸二五三三	同	六	同	五五二	二一	五五二	二一	二二	二月廿六日最樂寺棟仙和尚總持寺入院 五月廿七日棟仙禪師大教正ニ補セラル 六月四日今上天皇棟仙禪師ニ禪師號ヲ賜フ
二八二三	甲二五三四	同	七	同	五五三	二〇	五五三	二〇	二一	二月廿五日再ヒ兩山協和盟約ヲ結フ 五月三日永平寺承陽殿火 八月廿四日奕堂禪師寂 十一月廿二日今上天皇永平寺承陽大師ノ臨號ヲ賜フ
二八二四	乙二五三五	同	八	同	五五四	一九	五五四	一九	二〇	二月廿六日最樂寺棟仙和尚總持寺入院 五月廿七日棟仙禪師大教正ニ補セラル 六月四日今上天皇棟仙禪師ニ禪師號ヲ賜フ

二八二五	丙二五三六	同	九	同	五五五	一八	五五五	一八	一九	九月廿六日教會條例ヲ定ム
二八二六	丁二五三七	同	〇	同	五五六	一七	五五六	一七	一八	一月教部省ヲ廢シ其事務ヲ内務省ニ移ス
二八二七	戊二五三八	同	一	同	五五七	一六	五五七	一六	一七	二月能本山八月越本山各僧堂ヲ開ク 九月廿四日孤雲禪師六百回忌ヲ豫修ス 十月廿日兩山開祖稱號及ヒ忌日ヲ一定ス
二八二八	己二五三九	同	二	同	五五八	一五	五五八	一五	一六	二月廿五日再ヒ兩山協和盟約ヲ結フ 五月三日永平寺承陽殿火 八月廿四日奕堂禪師寂 十一月廿二日今上天皇永平寺承陽大師ノ臨號ヲ賜フ
二八二九	庚二五四〇	同	三	同	五五九	一四	五五九	一四	一五	二月廿六日最樂寺棟仙和尚總持寺入院 五月廿七日棟仙禪師大教正ニ補セラル 六月四日今上天皇棟仙禪師ニ禪師號ヲ賜フ
二八三〇	辛二五四一	同	四	同	五六〇	一三	五六〇	一三	一四	九月承陽殿再建成ル 十月教導取締會議ヲ開設ス
二八三一	壬二五四二	同	五	同	五六一	一二	五六一	一二	一三	四月五日貫首公撰規約成ル 五月五日日本末憲章成ル 八月廿五日本校新築成ル 十月十五日本校ヲ大學林專門本校ト改稱ス
二八三二	癸二五四三	同	六	同	五六二	一一	五六二	一一	一二	十月廿四日環溪禪師永平寺退隱 同日孝願寺環溪和尚永平寺入院 十一月廿日雪嶺禪師大教正ニ補セラル 十二月十五日今上天皇雪嶺禪師ニ禪師號ヲ賜フ
二八三三	甲二五四四	同	七	同	五六三	一〇	五六三	一〇	一一	八月十一日太政官神佛教導職ヲ廢シ住職任免等ヲ管長ニ委任ス 十二月七日環溪禪師寂
二八三四	乙二五四五	同	八	同	五六四	九	五六四	九	一〇	六月十日宗制發布 八月十日雪嶺禪師寂 十一月六日最樂寺環溪和尚永平寺入院 十二月十五日今上天皇環溪禪師ニ禪師號ヲ賜フ

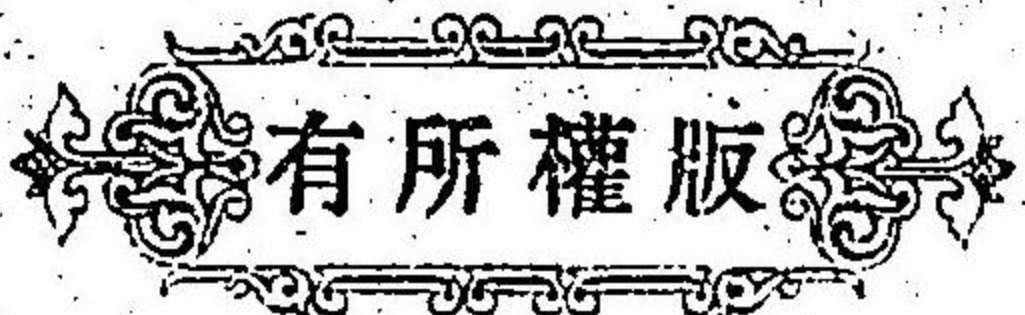
入滅紀年 即位紀年 歷代年號 宗名紀元

二八三五	二八三六	二八三七	二八三八	二八三九	二八四〇	二八四一	二八四二
丙二五四六	丁二五四七	戊二五四八	己二五四九	庚二五五〇	辛二五五一	壬二五五二	癸二五五三
今上天皇	明治二九	同	同	同	同	同	同
五六五	五六六	五六七	五六八	五六九	五七〇	五七一	五七二
八	七	六	五	四	三	二	一
二月十五日穆山(越)良範(能)ノ二御兩本 山西堂ニ任セラル 五月十五日宗内衣體 一齊ヲ達ス	十一月廿五日法式改正ヲ達ス 曹洞扶宗 會起ル	一月法式改正係ヲ置ク	六月曹洞宗有志會起ル 八月十五日洞上 行持規範編纂頒布成ル 十一月四日曹洞 宗議會ヲ開設ス	四月一日紀綱察ヲ置ク 同日未派總代委員ヲ置ク 七 月三十日教旨令改正 十二月一日曹洞教會修證制定 十二月有志會解散	四月三十日孫宗禪師永平寺退隱 五月臨時諮詢會ヲ開 ク宗内是ヨリ大ニ亂ル 九月十二日天徳院悟由和尚永 平寺入院 同十三日通幻禪師五百回忌ヲ修ス	三月十九日管長宗制取消兩山分離ヲ請願 ス 五月五日内務省管長ノ認可ヲ解除シ 事務取扱ヲ置ク 宗内紛擾	

(70)

明治廿五年十二月廿五日印刷
明治廿五年十二月廿七日出版

定價金拾參錢



版權登錄

著者兼
發行者

村上泰音

印刷者

島連太郎

印刷所

秀英舍

東京市芝區
榮町三番地

東京市京橋區
西紺屋町二十六番地

東京市京橋區
西紺屋町廿六七番地

